

辺野古・高江を守ろう！NGOネットワーク&FoE Japan  
オンラインセミナー

沖縄の米軍基地問題の解決をめざして  
—環境の視点からの国際社会への発信—

Okinawa Environmental Justice Project

ジュゴン保護キャンペーンセンター

吉川秀樹

2022年03月17日



## 話しの内容

1. 私の立ち位置
2. 沖縄の米軍基地問題とは
3. なぜ基地問題の国際化なのか、環境化（環境の視点）なのか
4. 辺野古新基地建設：「ジュゴン訴訟」、IUCNとの取り組み  
やんばるの森と北部訓練場：世界自然遺産登録
5. 学んできたこと
6. 今取り組んでいること

# 1. 私の立ち位置

1. やんばる（沖縄本島北部）出身／現在も名護市に住む  
辺野古・大浦湾 ⇨ 新たな米軍基地の建設  
やんばるの森／世界自然遺産⇨北部訓練場、軍事訓練、返還地  
当事者

## 2. NGOsのメンバー

ジュゴン保護キャンペーンセンター

Okinawa Environmental Justice Project

## 3. 文化／応用人類学が専門

問題を解決するために人類学の考え方や手法を使う

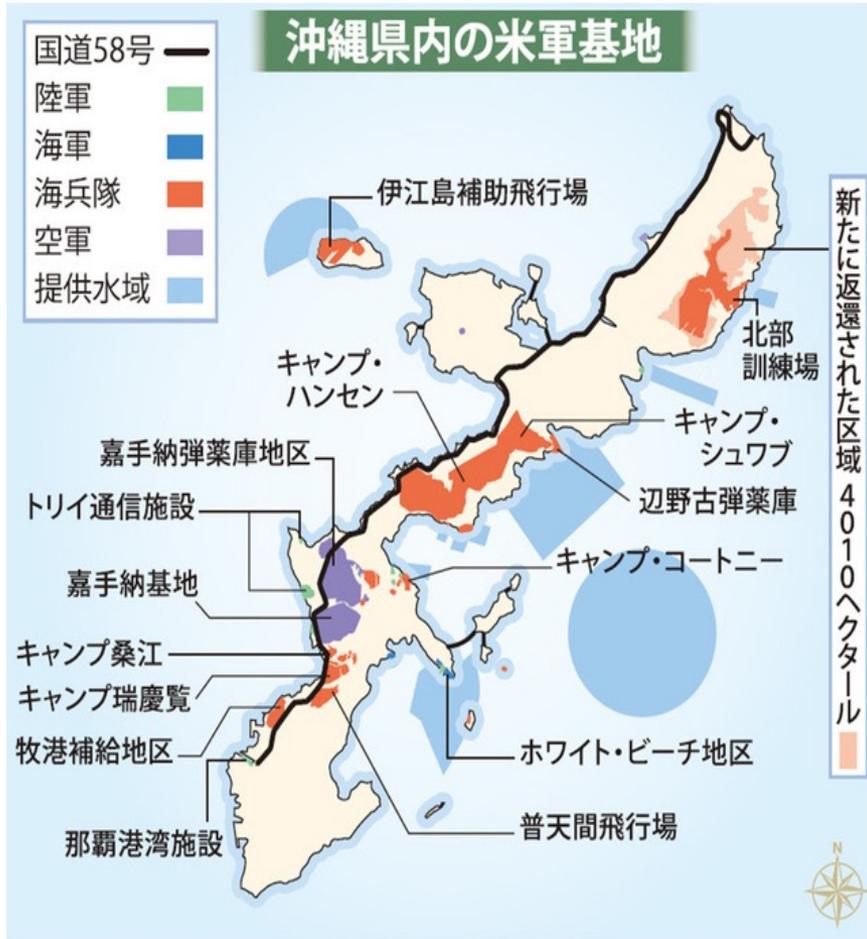
「文化」の概念：国際機関、専門家、行政、市民社会

包括的視点：関係性を見る学問（平和、人権、環境）

手法：参与観察と聞き取り（集会、政府交渉、国際会議）

環境リアリズム vs. 国際政治のリアリズム

## 2. 沖縄の米軍基地問題とは？



©沖縄タイムス

基地の集中 (戦争の負の遺産)

- ・ 0.6%と70%という数字

中南部：既存の米軍基地

航空機騒音、土壌・水汚染、事故の危険性等による生活環境への影響と破壊. 事件・事故・犯罪

北部：新たな基地建設や軍事訓練による自然環境の破壊. 事件・事故・犯罪

- ・ 文化的ヘゲモニー

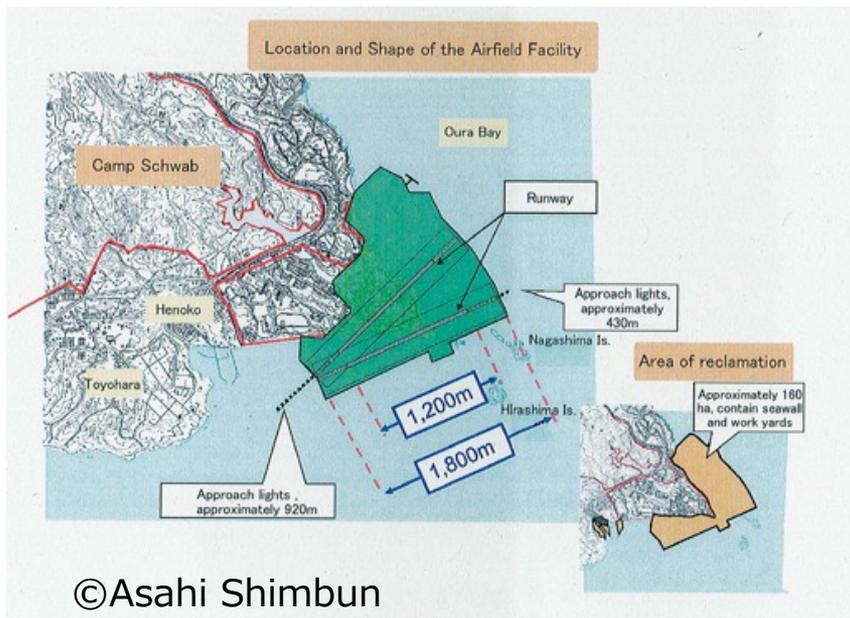
基地集中はしょうがない  
政治/国際関係のリアリズム  
(安保、地位協定、脅威論)

基地問題を直視しなくなる.

- ・ なかなか、なかなか解決しない



# 沖縄の米軍基地と環境：北部 辺野古・大浦湾



# 沖縄の米軍基地と環境：北部 やんばるの森/世界自然遺産



# 沖縄/国内における基地問題解決に向けた取り組み 集会、座り込み、選挙、県民投票、政府要請／交渉



論点：

反戦平和, 民主主義／民意,  
基地負担の軽減, 「構造的差別」

なかなか解決しない





# 国際社会における基地問題解決に向けた取り組み

国際市民社会グループとの連帯  
国連での訴え



論点:

反戦平和, 基地負担の軽減,  
人権 (女性、先住民族、環境),  
自治, 正義.

なかなか解決しない



### 3. なぜ基地問題の国際化なのか？ 環境化（環境の視点）なのか？

目指しているもの：1. 辺野古新基地建設の中止

2. やんばるの森を「真の世界遺産へ」  
軍事訓練の中止, 「返還地」の米軍廃棄物の除去, 北部訓練場の返還

国際化とは：国際機関や制度を使い問題を訴え、日米政府を動かす。

環境化とは：米軍基地による環境への影響や軟弱地盤の問題を焦点化し日米政府を動かす。（環境、平和、人権の関係）

活動：調査、報告書／要請文作成  
賛同者への呼びかけ  
要請、ロビーイング  
論文  
メールを書く



Connect the Green Dots to Protect Okinawa's Environment

### 3. なぜ基地問題の国際化なのか？ 環境化（環境の視点）なのか？

#### 理由1. 国内の機関／制度を使うことの限界

民主主義の仕組みが機能しない（選挙、県民投票、etc.）

民主主義が逆手に取られる

新基地建設にOKしてきたのは前知事や市長たち

国内法が機能しない（科学的検証 vs. 政治判断）

環境影響評価法、公有水面埋め立て法

縦割り行政：環境省は関わらない／関われない

「日米安保・同盟」「地位協定」に縛られている

文化的ヘゲモニー：しょうがない

### 3. なぜ基地問題の国際化なのか？ 環境化（環境の視点）なのか？

#### 理由2. 豊かな自然環境の存在と米軍基地

辺野古・大浦湾 **ホープスポット認定（2019年）**

絶滅危惧種263種を含む5,300種以上の海洋生物が20km<sup>2</sup>に生息（ハワイは171万km<sup>2</sup>に7,000種）

軟弱地盤の存在

建設は可能なのか 地盤改良工事の影響？

やんばるの森 **ユネスコ世界自然遺産（2021年）**

日米政府と市民社会の共通認識「環境は保護されるべき」

日本政府は「環境に影響はない」として新基地建設を強行

市民社会は「環境に影響がある」として中止を要求

軍事訓練は世界遺産区域の生物に影響はないのか？

**環境の問題は避けられない！！！！**

### 3. なぜ基地問題の国際化なのか？ 環境化（環境の視点）なのか？

理由3. 環境保護のための国際機関や組織が存在

国際自然保護連合（IUCN）

環境保護の世界最大の組織、国連の諮問機関

（専門家／科学者、国際機関、国／政府組織、NGOs）

米国の司法制度（ジュゴン訴訟 2003～2020）

国家歴史保存法、絶滅危惧種保護法

ユネスコ世界遺産条約



### 3. なぜ基地問題の国際化なのか？ 環境化（環境の視点）なのか？

理由4. 国際的機関、制度、そして市民社会が持つ「文化」

科学性の重視

規範や倫理

透明性、Accountability

機関や制度のインテグリティを守る

国際機関は基本的に政府の情報を重要視する

政治問題への対応：国際機関は消極的、市民社会は積極的

市民社会の自由度とネットワークの重要性

理由5. 日本政府は国際的声に弱い!?

## 4. 米国司法：辺野古新基地建設と「ジュゴン訴訟」 (2003~2020)



©Asia Times

沖縄の住民、日米環境NGO  
vs. 米国国防総省

国防総省は基地によるジュゴンへの影響を避ける義務がある。

**米国家歴史保存法**が海外の案件かつ動物に関わる案件で初めて適用された訴訟。

2008年、連邦地裁は国防総省に基地建設によるジュゴンへの影響の予測評価の**調査実施を命令**

他の米国政府機関も対応

国家歴史保存諮問委員会

海洋哺乳類委員会



# 4. 米国司法：辺野古新基地建設と「ジュゴン訴訟」 (2003~2020)



国防総省の専門家が、日本政府の環境アセスの問題を指摘。

国防総省の専門家の指摘を踏まえて、市民社会、国会議員らが再検証を日本政府による追求。

2020年5月、連邦控訴裁判所は、国防総省の「ジュゴンに影響なし」とする結論を認め結審

与えられた状況で可能な限りの対応を行なった。

ジュゴン訴訟は「**国家歴史保存法**」で沖縄の米軍基地問題が争える前例を作った。



©A. Mitsuishi

## 4. IUCN: 辺野古新基地建設関連の取り組み (2000~現在)



IUCN勧告／決議の採択 (2000, 2004, 2008, 2016)

ジュゴン保護と環境アセスの実施  
侵略的外来種侵入の阻止  
(やんばるの森の世界遺産登録)

IUCNレッドリストへの記載 (2019)

南西諸島のジュゴンをCritically Endangered (近絶滅) と評価

辺野古の埋め立てによる海草藻場の消失に言及

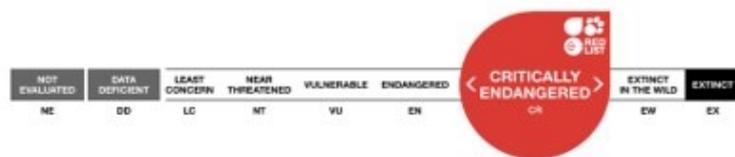


### Dugong

*Dugong dugon (Nansei subpopulation)*

#### CITATION

Brownell Jr., R.L., Kasuya, T. & Marsh, H. 2019. *Dugong dugon (Nansei subpopulation)*. *The IUCN Red List of Threatened Species 2019*: e.T157011948A157011982. Downloaded on 29 December 2019.



玉城デニー知事の**設計変更「不承認」**においてIUCNレッドリストの評価が**重要な科学的根拠**になる。

# 4. IUCN: 辺野古新基地建設関連の取り組み (2000~現在)

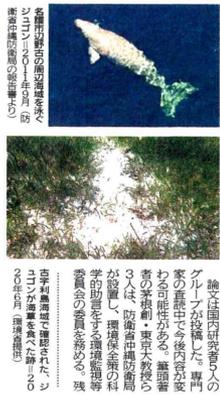
Table 1: Summary of projects suggested in this Research Plan

Objective (s)	Project #	Project Name	Recommended Commencement Date
To identify locations where dugongs might still be present in the Nansei Islands Region using the expert knowledge of local fishermen. (Highest Priority)	1	Seeking information from fishermen to determine the distribution and relative abundance of dugongs in the Nansei Islands Region	As soon as possible
	2	A smartphone App to encourage citizens to record and report sightings of dugongs and dugong feeding trails in the Nansei Islands Region	As soon as possible
To contribute to a multiple lines of evidence approach to confirm the presence of dugongs in candidate habitats where other data e.g., public sightings, reports from fishers, sounds, feeding trails) suggest that one or more dugongs may currently occur in the Nansei Islands Region. (Very high priority)	3	Using eDNA to confirm the presence of dugongs in the Nansei Islands Region	Preliminary work: as soon as possible Application: when other data suggest where one or more dugongs may currently occur in the Nansei Islands Region.
	4	Drone surveys for dugongs, dugong feeding trails and seagrass in the Nansei Islands Region	Preliminary work: as soon as possible Application: when other data confirm dugongs still exist in the Nansei Islands Region.
	5	Passive acoustic observations of dugongs in Nansei Islands Region	
To provide insights into the behaviour of dugonging e.g., time and amount of feeding, vocal hotspots, socializing behaviour if dugongs are confirmed to still exist in the Nansei Islands Region. (Low priority)	4	Drone surveys for dugongs, dugong feeding trails and seagrass in the Nansei Islands Region	Preliminary work: as soon as possible Application: when other data confirm dugongs still exist in the Nansei Islands Region.
	5	Passive acoustic observations of dugongs in Nansei Islands Region	
1.To document the spatial extent, connectivity, community composition, ecosystem functions and ecosystem services of seagrass beds in Okinawa as critical component of the effective conservation and management of the Japanese Dugong Sub-Population.	6	Current status of seagrass beds in the Nansei Islands Region	As soon as possible
2.To document the threats to seagrass communities in the Nansei region as the basis of a spatial risk			

©MMC

IUCN/SSGがジュゴンの「調査計画」を作成し、日本政府、沖縄県に提案。(2019)

「調査計画」を作成するワークショップは米国海洋哺乳類委員会の財政支援で開催



## 環境団体から疑問の声

「ジュゴン絶滅」論文投稿  
 辺野古 有識者、調査と矛盾  
 環境団体の疑問の声  
 論文投稿は、環境団体の疑問の声  
 論文投稿は、環境団体の疑問の声

# 「ジュゴン絶滅」論文投稿

2021年 5月28日 金曜日  
 (令和3年) [旧4月17日・友引]  
 発行所 那覇市久茂地2丁目2番2号  
 (郵便番号900-8678) 沖縄タイムス社  
 印刷所 那覇中央郵便局293号ビル印刷(株) 2021年  
 代表電話 (098) 860-3000  
 読者サービスセンター 読者・配達の問題はすべて  
 (098) 860-3663 04 0120-21-9674

論文投稿は、環境団体の疑問の声  
 論文投稿は、環境団体の疑問の声  
 論文投稿は、環境団体の疑問の声

IUCN/SSGから沖縄県に対して、環境監視等委員らが執筆したジュゴン絶滅論文の「主張は全く信頼に値しない」という見解が沖縄県に送られている。(2021年5月)

SSG=Sirenian Specialist Group  
 海牛目専門家グループ



## 4. IUCN：やんばるの森世界遺産登録、北部訓練場、返還地

今後も世界遺産推薦やその後の評価、登録やモニタリング等に係る情報を適宜共有し、推薦地の適切な保全・管理を図るために、必要に応じて意見交換等を行うこととしている。

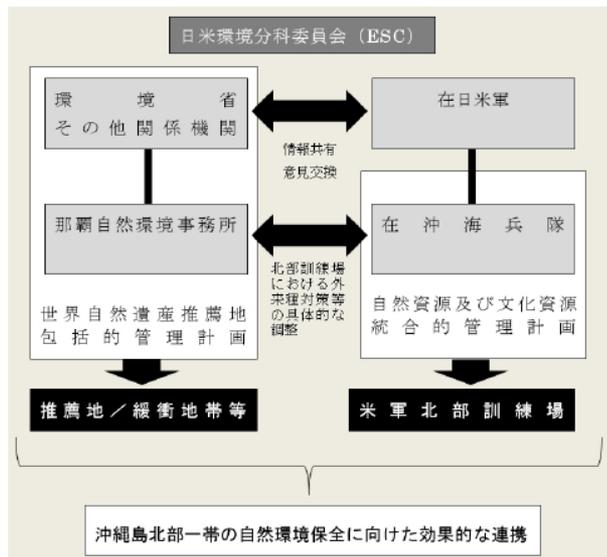


図5-2 沖縄島北部における日米間の協力関係

環境省は2019年の推薦書では北部訓練場について記載。

世界遺産登録に向けての**日米政府の合意書**を掲載。

**日米合同委員会環境分科会**を北部訓練場と世界遺産の問題を扱う機関とし正式に位置づける。

米軍の資料を記載。

2019年に市民社会から軍事訓練の影響や米軍廃棄物の問題と解決策を提案した文書をIUCNに提出。

**問題を抱えたまま**2021年7月ユネスコ世界自然遺産に登録。

**世界遺産条約や運用指針を使った基地問題の解決の可能性**



## 5. 問題解決にはまだ遠いが、学んできたこと

1. 辺野古・大浦湾ややんばるの森の自然環境の価値は国際的に認められおり、IUCNやユネスコ世界遺産センターのような国際機関は勿論、日米政府も**環境と米軍基地の問題を無視できない**.
2. 一方、日米政府（行政）は**米軍基地の問題**が国際的にまたは米国内で**表面化することを抑えようと動いている**.（日本政府の「環境に影響なし」の報告書. 米軍の報告書の作成や開示の遅れ）.（玉城知事の不承認の情報が県ワシントン事務所のHPにないのはどう理解するばよいか）
3. 市民社会が、国際機関や制度そして米国の機関や制度を使い、科学的根拠をもって問題をタイミングよく提起できるか、それを政治判断につなげられるかが鍵.
4. 米軍基地の問題だからこそ**米国の制度が使える**ということ、そして**米国の市民社会が関わってくれる**ことを理解し、今後の取り組みを展開していくことが必要.

## 5. 今、取り組んでいること

### 1) 世界自然遺産やんばるの森と北部訓練場「返還地」の問題

ドイツに拠点を置くWorld Heritage Watch(NGO)と協力しユネスコ世界遺産センターとIUCNへ情報を提供し、日米政府（特に米国内務省や連邦議会）に働きかける。

北部訓練場の世界遺産への**影響を日本政府に調査**させる。

日米合同委員会環境分科会が**機能しているか**を追求。

世界遺産の隣で訓練が行われていることに対する**米国政府の見解を引き出す**。



## 5. 今取り組んでいること

### 2) 辺野古・大浦湾における新基地建設の問題について

米国連邦議会へ要請文と報告書を提出し、米国の市民団体と協力のもとロビーイングを行う。「辺野古が唯一」「実行されないと日米同盟に影響を与える」という主張へ反論の提示。

軟弱地盤の問題と環境破壊の問題を連邦議会軍事委員会で議論させる。国防権限法で検証を求める条項を入れさせる。

基地建設が可能か、可能でも完成は2030年代？

このような基地が戦略的に位置付けできるのか？

普天間基地の危険性は放置され続ける。

地盤改良は辺野古・大浦湾の環境を破壊する。



Okinawa Environmental Justice Projectの活動について

Okinawa Environmental Justice Projectブログ（日英）

<http://okinawaejp.blogspot.com/>

要請文書、報告書、記事



Facebook（日英）

<https://www.facebook.com/OkinawaEJP>

論文／論考

「ジュゴン訴訟——15年の経緯と今後の展望」

『環境と公害』2018年10月号

「やんばるの森の世界自然遺産登録と米軍北部訓練場  
-市民社会から国際機関への働きかけの経緯」

『環境と公害』2022年4月号

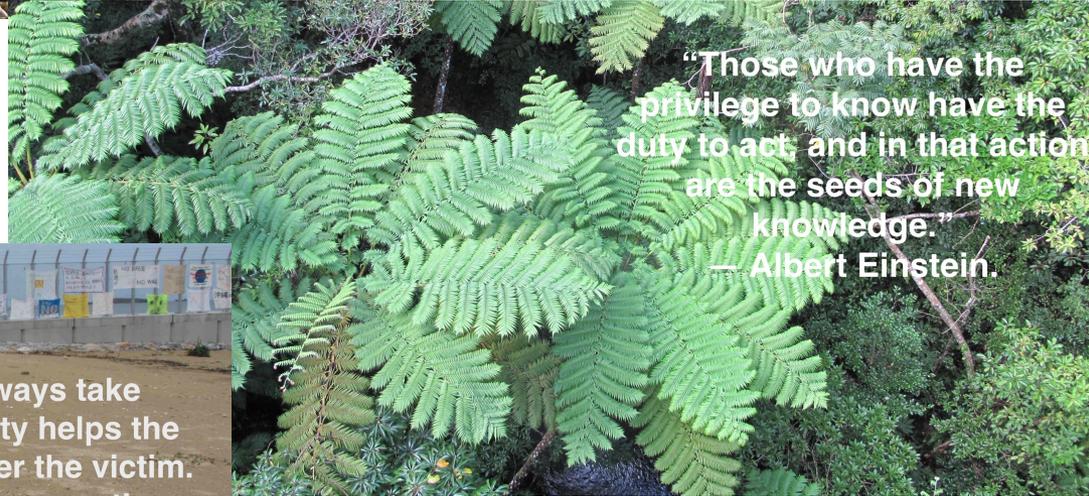
*Asia-Pacific Journal: Japan Focus*（英語）

<https://apjpf.org/-Hideki-YOSHIKAWA>



“Never doubt that a small group of thoughtful, committed, citizens can change the world. Indeed, it is the only thing that ever has.”  
— Margaret Mead

ありがとうございました!



“Those who have the privilege to know have the duty to act, and in that action are the seeds of new knowledge.”  
— Albert Einstein.



We must always take sides. Neutrality helps the oppressor, never the victim. Silence encourages the tormentor, never the tormented.  
— Elie Wiesel

Add Environmental Realism to these precious words!